

令和4年度（第29回）
静岡県図書館大会



全体会 ・ 第1～4分科会

期 日：令和4年11月21日(月)

会 場：静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ

第5分科会

期 日：令和4年11月28日(月)

開催方法：オンライン(Zoom)

静岡県教育委員会
静岡県図書館協会
静岡県読書推進運動協議会



大会アンケート
(分科会終了後御協力ください。)

目 次


日程・会場案内	1
大会要項	2
開会式	4
表彰式	5
優良読書グループ紹介	6
講演	8
分科会	16
講師おすすめの本	17
会場案内図	18

来年度の静岡県図書館大会開催予定

日 程：令和5年11月13日（月）

会 場：静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

日程・会場案内

	時間	階	会場	定員
全体会受付	9:20 ～ 9:45	1階	中ホール大地 ロビー	/
開会式・表彰式	9:45 ～ 10:15	1階	中ホール大地	800
講演 「図書館職員の意識からサービス向上を考える」 講師 内野 安彦 氏	10:30 ～ 12:40	1階	中ホール大地	800
諸連絡				
第2分科会受付 (その他分科会は受付を行わない。指定の席に資料を配布済み)	13:15 ～ 13:45			/
第1分科会 図書館サービス 「図書館のSNS活用 ～利用者に興味を持ってもらえる、図書館にとってベストな広報とは?～」 講師 佐藤 翔 氏		6階	交流ホール	172
第2分科会 大人の読書活動 「一つの作品ができるまで～文芸編集者の作家伴走法～」 講師 中瀬 ゆかり 氏	13:45 ～ 15:45	1階	中ホール大地 1階	500
第3分科会 幼児・児童に対するサービス 「科学絵本は楽しい!「かがくのとも」の作り方」 講師 山形 昌也 氏		10階	会議室 1001	200
第4分科会 学校図書館 「本の読み方を学ぼう～点検読書をやってみよう～」 講師 木下 通子 氏		9階	会議室 910	92
第5分科会 大学図書館 「大学図書館の継続的サービス提供 ～勤務体制に左右されない環境構築～」 講師 山下 大輔 氏 坂本 里栄 氏	11月28日 (月) 13:30～ 15:30		オンライン開催 お申込みはこちらから↓ 	90

令和4年度 静岡県図書館大会要項

- 1 趣 旨** 県内の図書館関係者及び各地で読書活動に携わる人を始め、広く図書館に関心を持っている人々が集まり、生涯学習の拠点として、図書館が地域住民の学習・文化活動において果たすべき役割やその可能性を探る。
さらに、読書活動の一層の推進を目指して研修し、参加者相互の交流を深めることにより、「読書県しずおか」を全国に情報発信する。
- 2 対 象** 図書館・公民館図書室・学校図書館関係者、教育委員会関係者、図書館協議会委員、社会教育委員、公民館運営審議会委員、読書会・文庫関係者、図書館ボランティア、読み聞かせボランティア、図書館利用者、図書館・読書活動に関心のある人
- 3 共 催** 静岡県教育委員会、静岡県図書館協会、静岡県読書推進運動協議会
- 4 主 管** 静岡県立中央図書館
- 5 日 時** (1) 全体会、第1～4分科会
令和4年11月21日(月) 午前9時45分から午後3時45分まで
(2) 第5分科会
令和4年11月28日(月) 午後1時30分から3時30分まで
- 6 会 場** (1) 全体会、第1～4分科会
静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
(〒422-8005 静岡市駿河区東静岡2丁目3-1 JR東静岡駅隣接)
(2) 第5分科会
オンライン(ライブ配信、運営会場：静岡県立中央図書館)
- 7 日 程**
(1) 令和4年11月21日(月) グランシップ開催
全体会 9:20～9:45 受付
9:45～10:15 開会式・表彰式
10:15～10:30 休憩
10:30～12:40 講演「図書館職員の意識からサービス向上を考える」
講師：内野 安彦 氏(元茨城県鹿嶋市・元長野県塩尻市立図書館
長、古書店「雀羅書房」店主)
諸連絡
12:40～13:45 休憩・昼食
分科会 13:45～15:45
第1分科会 図書館サービス
「図書館のSNS活用
～利用者に興味を持ってもらえる、図書館にとってベストな広報とは?～」
講師：佐藤 翔 氏(同志社大学 免許資格課程センター 准教授)
第2分科会 大人の読書活動
「一つの作品ができるまで ～文芸編集者の作家伴走法～」
講師：中瀬 ゆかり 氏(株式会社 新潮社 出版部部長)

第3分科会 幼児・児童に対するサービス

「科学絵本は楽しい！「かがくのとも」の作り方」

講師：山形 昌也 氏（福音館書店 書籍編集部長）

第4分科会 学校図書館

「本の読み方を学ぼう～点検読書をやってみよう～」

講師 木下 通子 氏（埼玉県立浦和第一女子高等学校 担当部長兼主任司書）

(2) 令和4年11月28日（月）オンライン開催（Zoomによるライブ配信）

第5分科会 大学図書館 13：30～15：30

「大学図書館の継続的サービス提供～勤務体制に左右されない環境構築～」

講師：山下 大輔 氏（西南学院大学 大学院課 副課長）

坂本 里栄 氏（西南学院大学 図書情報課）

8 参加申込（先着順・事前申込必要）

(1) 全体会、第1～4分科会

ア 静岡県図書館協会加盟館（室）（ボランティア、図書館協議会委員等を含む）

申込期間：8月12日（金）から9月9日（金）まで

申込方法：参加希望を取りまとめメール又はおうだんくんで申し込む。

イ 県内小・中・高等学校、特別支援学校、教育委員会

申込期間：9月15日（木）から9月30日（金）まで

申込方法：参加希望を取りまとめメールで申し込む。

ウ その他の参加希望者

申込期間：10月7日（金）から10月31日（月）まで

※ 第2分科会のみ9月15日（木）から10月31日（月）まで

申込方法：ふじのくに電子申請サービスから申し込む。電子申請による申込みができない場合に限り、大会案内の参加申込書に必要事項を記入し、県立中央図書館カウンター又はFAXで申し込む（メールアドレス又はFAX番号必須）。

(2) 大学図書館分科会参加申込

申込期間：10月7日（金）から11月27日（日）まで

申込方法：ふじのくに電子申請サービスから申し込む。

9 開催の判断の基準（グランシップ会場）

11月11日（金）時点の「国評価レベル」を参考に、「新型コロナウイルスの感染状況や医療のひっ迫状況等を評価する国のレベル分類及び本県の対応」に準じて、11月15日（火）に開催方法を決定する。

(1) 県下全域が国評価レベル「2」以下の場合は、開催方法を変更しない。

(2) 県下全域が国評価レベル「3」以上の場合は、原則、開催方法をオンライン（ライブ配信又はオンデマンド配信）へ変更又は中止とし、申込者へメール又はFAXにて通知する。

(3) ただし、11月15日以降に感染急拡大の場合はこの限りではない。

10 その他

(1) 中ホールで行われる全体会と第2分科会では、要約筆記を行い、事前申込により磁気テープ及び手話通訳を配置する。（グランシップ会場）

(2) 開催に当たっては静岡県イベント開催における感染防止方針、政府通知等を遵守する。（グランシップ会場）

(3) 講師の許諾が得られた場合には、後日 YouTube 限定配信を行う。

開 会 式(1階 中ホール大地)*****

司 会 静岡県図書館協会 図書館大会運営委員会
委員長 勝見 幸弘 (静岡市立中央図書館長)

主催者挨拶

静岡県教育委員会教育長

池上 重弘

静岡県図書館協会長

柴 雅房 (静岡県立中央図書館長)

主催者紹介

静岡県読書推進運動協議会長

伊藤 博

静岡県教育委員会社会教育課長

藤ヶ谷 昌則

表彰式(1階 中ホール大地)*****

優良読書グループ表彰
全国公共図書館協議会表彰
静岡県図書館協会表彰

受賞者(敬称略)

優良読書グループ表彰

(公社)読書推進運動協議会長賞

音読グループ「つくし」

(函南町)

静岡県読書推進運動協議会長賞

原里中学校読み聞かせボランティア

(御殿場市)

あさはたお話の会

(静岡市)

さくらんぼ

(島田市)

お話しどんぐり

(川根本町)

全国公共図書館協議会表彰

鈴木 貴子

(富士宮市立西富士図書館)

山本 敬子

(島田市立図書館)

浅井 勝巳

(吉田町立図書館)

静岡県図書館協会表彰

鈴木 由美

(静岡県立中央図書館)

菅藤 悦子

(三島市立図書館)

中田 純子

(三島市立図書館中郷分館)

笠井 友紀

(富士宮市立中央図書館)

坂本 信代

(富士宮市立芝川図書館)

岩瀬 敦美

(静岡市立中央図書館)

宮城 久美子

(静岡市立中央図書館)

高木 倫世

(静岡市立中央図書館)

山下 智子

(静岡市立西奈図書館)

森下 早織

(静岡市立長田図書館)

富山 瑞枝

(静岡市立長田図書館)

守屋 綾子

(焼津市立大井川図書館)

熊谷 成子

(島田市立図書館)

山田 千尋

(島田市立島田図書館)

小久江 暁子

(袋井市立袋井図書館)

※県図書館協会加盟館一覧順

優良読書グループ紹介*****

《(公社)読書推進運動協議会長賞》

音読グループ「つくし」(函南町)

函南町ボランティア連絡協議会に属し活動している音読グループ「つくし」は、朗読を学んだり、子ども達へ読み聞かせをしたり、個人で施設訪問をしていた者が、志を一つに集まり、平成18年に設立されました。現在、20代から90代のメンバー17名で月一回の定例会を行い、活動の確認や情報交換、練習などを行っています。勉強のための個人発表も毎月行い、意見を交わしています。また、所蔵の本・大型絵本・紙芝居などを「つくし文庫」として公開しています。図書館、町内小中学校、福祉施設8か所、地域サロンや行事に伺って朗読や語り、紙芝居、歌、わらべ歌、手遊び、なぞなぞ、バルーンアートなどを参加者と一緒に行いました。コロナ禍で今までの活動ができなくなりましたが、その中でできることを行ってきました。嬉しいことに図書館おはなし会、小中学校の読み聞かせ、施設訪問が再開され、今まで以上に感謝を持ち、心を込めて活動しています。また、リモート訪問という形にもチャレンジし、新たな勉強の機会にもなっています。心に響く名作や土地の民話、大切なものが込められた本、それを私たちが媒介となり丁寧に読んで伝えたい、感じてもらいたいと思っております。これからも、より良い活動を楽しみながら続けていくために、メンバー全員で力を合わせ邁進してまいります。

《静岡県読書推進運動協議会長賞》

原里中学校読み聞かせボランティア(御殿場市)

原里中学校読み聞かせボランティアは、平成16年に小学校で読み聞かせをしていたボランティアが、中学生にも「本の面白さや大切さを伝えたい」という思いで発足し、原里中学校での読み聞かせをスタートしました。以来18年間、メンバーを変えながら、この思いを繋いできました。

現在は、保護者やOGだけでなく、地域の有志などを含め計16名で活動しており、年間8回の朝読書の時間を頂き、朗読や絵本の読み聞かせ、ブックトークなどを行っています。

私たちは、子ども達が生涯にわたって本に興味を持てるように、これからも活動を続けていきたいと思っております。

あさはたお話の会(静岡市)

「あさはたお話の会」は、静岡市立中央図書館麻機分館で絵本の読み聞かせを行っているグループです。平成21年に発足し、現在は8名が活動しています。図書館のおはなし会は2人一組で担当し、昔話、科学絵本、手遊び、わらべうたなど、各担当の得意分野を生かしたプログラムで実施しています。木の実や野菜など実物を見せたり、音や香りを感じてもらったり、参加者に楽しんでもらえるような工夫をしています。メンバーは学区の小学校、中学校、特別支援学校での読み聞かせ活動にも積極的に参加しています。子どもたちの「絵本楽しかったよ。また読んでね。」の言葉が嬉しくて、今度はどんな本を読もうかと毎回楽しく活動を続けています。

さくらんぼ(島田市)

27年前、母親学級で一緒になったメンバーの「地域に読み聞かせの場を」という思いから、平成7年に発足したのが「さくらんぼ」です。メンバーは15人。活動内容は、図書館や近隣の幼稚園・保育園、特別支援学校でのおはなし会を始め、図書館主催の「おはなしマラソン」に参加し、子供たちとおはなしの場を楽しんでいます。その他、公民館事業「元気キッズ」での読み聞かせや絵本の中のお菓子作り、市内のコミュニティFM「FM 島田」で絵本の紹介等を行っています。また、毎月発行の「さくらんぼだより」は、メンバーの個性が光る発信ツールとなっています。メンバー同士の情報共有を大事にし、おはなしの楽しさや声の温かさを子供たちに伝え続けていきたいと思っています。

お話しどんぐり(川根本町)

お話しどんぐりは、絵本の読みきかせグループとして平成6年に発足し、現在は18名で活動しています。主な活動は、町内の小中学校、保育園、高齢者施設等での読みきかせです。近年は町外の保育園等からも依頼を頂くようになり、より多くの方にお話を楽しんでもらえるよう活動しています。

地域に伝わる民話の朗読や紙芝居を取り入れることで、民話を次の世代へ引き継いでいけたらとも思っています。また、自作の紙芝居や朗読劇、パネルシアターや人形劇の作製にも力を入れ、お話の魅力が伝わるようにメンバーで工夫しています。

活動を通してたくさんの方と触れ合うことができ、私たちにとっても楽しい時間となっています。今後も、新たな作品作りに力を入れていきたいと思っています。

講演(1階 中ホール大地)*****

「図書館職員の意識からサービス向上を考える」

講師 内野 安彦 氏

(元茨城県鹿嶋市・元長野県塩尻市立図書館長、古書店「雀羅書房」店主)

1956(昭和31)年、茨城県生まれ。1979(昭和54)年に鹿島町役場(現鹿嶋市役所)に入所。総務、広報公聴、人事、企画を経て図書館へ。中央図書館長、学校教育課長を歴任し2007(平成19)年3月に鹿嶋市役所退職。同年4月に塩尻市役所入所。2012(平成24)年3月に塩尻市役所退職。現在、古書店「雀羅書房」店主。

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程中退。図書館情報学修士。

行政は「市民の困っていること」をケアする仕事です。みなさんにはその意識がありますか。行政マンであれば当たり前のことであるのに、図書館員が気付いていないことがあるかもしれません。「行政マンとして図書館員が忘れてしていること」の著者である内野安彦氏からのお話を伺い、図書館員としての在り方を改めて考えてみませんか。

(10分程度の休憩あり。質疑応答なし)



令和4年度 静岡県図書館大会

日時 令和4年11月21日(月)10:30～12:40
会場 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
講師 内野安彦(元塩尻市立図書館長、雀羅書房店主)

講演「図書館職員の意識からサービス向上を考える」

1. はじめに

2. 図書館のプレゼンス

- ・この30年で公共図書館は何館増えたか ⇒ 約1,300館
- ・この30年で公共図書館1館当たりの図書購入費はどう変わったか ⇒ 約4割減少
- ・1年間に図書館を利用する人の割合は ⇒ 約4割
- ・公共図書館の貸出冊数は増えている ⇒ 10年前の約4分の3に減少

3. 自治体の中で図書館のアドバンテージやポテンシャルを伝えていますか

「まちづくり」との結びつきは、これからの図書館にとって欠かせない視点であると同時に、逆に自治体のまちづくりにとって「図書館」との結びつきは必須の条件である。なぜなら図書館は単なる読書施設ではなく、次のような特徴を併せもつ他に類を見ない公共施設だからである。

- ・施設の床面積あたりの集客力が大きい
 - ・利用者の年齢・年代の幅が広い
 - ・無料で使え、平日・休日、昼夜を問わず開館している
 - ・司書という専門的職員が利用相談に応じ、ボランティア活動も盛ん
 - ・古今東西、森羅万象、あらゆる趣味と興味と知的関心に対応可能
 - ・短時間の立ち寄りから長時間にわたる滞在まで、自分の居場所がある
 - ・カフェ、書店、体育・スポーツ施設、学習塾など民間文化施設とも親和性が高い
- * 糸賀雅児 「まちづくりを支える図書館」『ガバナンス』No.184, 2016年

- ・首長はじめ自治体の同僚ですら、上記の図書館の特徴について把握していない。

4. 図書館の評価者に伝えなければならないこと

- ・評価者＝市民、理事者、議員、同僚（特に企画・人事・財政の各部署）など
- ・人口一人当たりの貸出冊数などの定番の評価指標に「図書館の日常」「利用者・市民の声」は反映されているだろうか。

予算削減とか専門スタッフの軽視とか、いま行政当局や地方議会が公共図書館に対してとっている冷やかな態度。それに対して図書館側はどう実際に対処しているのか。そうしたことがらについて、おそらく一般の利用者はなにひとつ知らされていないはずですが。知らないのは当事者が積極的に知らせようとしないからです。情報なくしてデモクラシーなし。いま地域の図書館がおちいりつつある窮状についての情報をまったく外にださずに「提携」を説かれても、市民や住民や利用者の側は、もうひとつ力のだしようがないのではないのでしょうか。

* 津野海太郎 「公共図書館「原理主義者」の弁」『図書館の学校』 No.005, 2000年

5. 自治体職員としての基礎的知識と専門的職員としての知識が必要な理由

- ・1997年から国の指針にそって地方自治体は人材育成方針を作成することになった。（都道府県や指定都市は100%、市区町村でも94.5%が策定済み）
- ・行政法、自治制度、自治体の総合計画などが基礎的知識として求められている。

公立図書館の持つミッションを広く住民に理解してもらうためには、良いサービスを実現して住民の信頼を得ることは当然である。しかし、そのために住民の求めに応じて気を引くサービスメニューを増やすことだけでは十分ではない。とくに来館者や常連の利用者を満足させるという発想だけでは、ステークスホルダー全体を把握したことにはならないし、経営戦略としては発展性がない。まずは自治体と図書館が明確なミッションと実現すべき目標を示し、それをステークスホルダーとともに考え、必要なサービスを協働で創造すること、理解し共有できるように発信・明示することが重要であろう。

* 下田尊久 「図書館情報学と公立図書館がめざすこれからの図書館像」『現代の図書館』 Vol.52 No.1, 2014年

6. 利用者を増やすことだけでなく支持者を増やすこと

大多数の住民に支持されるということは、図書館にとって最高の味方を得ることである。そして、開館後、住民に支持され続けることが図書館にとっての最高の荣誉である。圧倒的多数の住民から絶大な支持が得られれば、たとえ一軒の図書館の実戦であろうと日本社会全体に大きく影響を与えることができる。

* 渡部幹雄 『図書館を遊ぶ エンターテインメント空間を求めて』 新評論, 2003年

7. 図書館員の倫理綱領の「文化創造への寄与」は実践されているか

第11 図書館員は住民や他団体とも協力して、社会の文化環境の醸成につとめる。

図書館は孤立した存在であってはならない。地域社会に対する図書館の協力は、健康で民主的な文化環境を生み出す上に欠くことができない。他方、この文化環境によって図書館の本来の機能は著しい発達をうながされる。図書館員は住民の自主的な読書運動や文庫活動等をよく理解し、図書館の増設やサービス改善を求める要求や批判に、謙虚かつ積極的にこたえなければならない。さらに、地域の教育・社会・文化諸機関や団体とも連携を保ちながら、地域文化の向上に寄与すべきである。

第12 図書館員は、読者の立場に立って出版文化の発展に寄与するようつとめる。

出版の自由は、単に資料・情報の送り手の自由を意味するのではなく、より根本的に受け手の知る自由に根ざしている。この意味で図書館は、読者の立場に立って、出版物の生産・流通の問題に積極的に対処する社会的役割と責任を持つ。また図書館員は、「図書館の自由に関する宣言」の堅持が、出版・新聞放送等の分野における表現の自由を守る活動と深い関係を持つことを自覚し、常に読者の立場に立ってこれら関連分野との協力につとめるべきである。

そもそも、何をするかと同じぐらい「だれがするか」が重要だ。同じことを図書館が単独で実施するのと、地域の小学生たちといっしょにやるのでは注目度も違うし、アイデアの幅も広がり、地域への開かれ具合も違ってくる。なによりも利用者は「わたしが関わった図書館」だとして周りに自慢したくなるだろう。それらを積極的にSNSなどで告知してもらってもいい。図書館単独ではできないと伏せておくのではなく、できないことはできないと外に向かってきちんと声に出して言ってもいいのではないか。わたしは、むしろもっと「(相手を信頼して)弱音を吐く」べきだと思っている。

* 平野雅彦 「ブランディングと図書館—デザインにおける可能性とそのヒント」『専門図書館』No.253, 2012年

活字に限って言えば、新刊・ベストセラー中心の現在の多くの書店に期待するものは最早何もない。図書館の使命が書店の補完的役割を大とするならば、図書館の果たさなければならない仕事は質量ともに沢山ある。毎年おびただしい本が出版される。悪書もあれば良書もある。大手の出版社からのものもあれば地方の小出版社からのものもある。それらが全ての書店に並ぶのは物理的経済的に不可能である。もし並んだとしても、一部の本を除いては一瞬の出来事である。

多くの良心的な書店人は、このことに頭を悩ませている。彼らの多くは「いい本を長く置きたい」「名もない出版社でも良書は置きたい」と常日頃考えている人種である。しかし、商売上の理由がこれを妨げている。図書館の使命は、この延長線上にあるべきではないか。バトンを受けて、「今度は僕らに任せてよ」と言うべきなのだ。

かくして図書館と書店は見事に共存共栄でき、目ききの図書館が一定の割合で買ってくれ

れば、小出版社の経営も安定するのである。活字文化の保存にも繋がる。

*菊地敬一 『ヴィレッジ・ヴァンガードで休日』リブリオ出版, 1997年

8. 地域の課題をいかに把握するか

公務員はやはり法律や制度については事柄的知識を持っているべきだと思う。もちろん自分が直接それについて担当している必要もないし、詳細な知識を持っている必要もないが、役所のどの部署にアプローチすると何がどの程度解決するかについては、地域に適切なアドバイスができる必要がある。また、地域コミュニティを支援する制度が強く求められ、かつ多くの自治体で実際に試行されている時代であるから、制度設計を行う政策法務能力も非常に重要になってきている。「地域に出る」公務員像と、いわば従来型とも思われる法律や制度をよく知っている公務員像とは、決して別物ではない。

*名和田是彦「地域コミュニティの活性化と職員の役割」『ガバナンス』No.158, 2014年

- ・総合計画をはじめ庁内の各種計画、各種行政資料、議会質疑応答に不断に関心を持ち、選書、展示、利用者拡大に活かす。

9. アウェイで図書館をプロモーションすること

相手を変えようと思えば、まず自分が変わる。どこが主催かは関係ない。図書館のミッションを重視しよう。例えば子どもの読書環境を良くすることが図書館のミッションだということであれば、どこの主催であろうと子どもの読書環境を良くする仕事は図書館の仕事だ。ボランティア、市民の主体性を損なうことがあってはならないけれども、自分の仕事として参加する。市民参加が、行政の行うことに市民が参加するというのであれば、市民参加の逆の行政参加といえるかもしれない。市民が行うことに行政が参加することがあっても良いのではないか。

*中島興世「図書館の使命は地域社会の問題解決」『社会教育』No.781, 2011年

- ・自動車雑誌『ベストカー』（講談社BC／講談社）に、「図書館で借りたいクルマ本7選」を3頁にわたり掲載（拙著『クルマの本箱』を読まれた編集者からの執筆依頼）
- ・自動車業界紙『週刊 Car&レジャー』のコラムで拙著『クルマの図書館コレクション』が取り上げられる
- ・図書館サービスの周知方法は無限大である。NPO 法人おおきなうち（神奈川県大磯町）主催のトライアル企画。クルマと図書館、プロレスと図書館、そして、懲りずに落語と図書館を近日行う予定。



10. サステナブルな図書館

読者が一冊の本に出会う。その出会いの場に至るまでに、本は多くの無名の人々の手に支えられている。作者からはじまり、出版社、印刷所、取次、輸送会社、書店、図書館、そして読者。彼らはそれぞれの立場で自分の仕事をよりよい方向に向けようとしているはずである。それにもかかわらず、本を取り巻く環境や、出版を全体的に捉えた場合、その構造は決して最良のものではない。それはなぜなのか。出版界を変えるのは、なにもその業界の人たちに限られるものではない。むしろ読者の一冊の本を求める切実な思いである。見方を変えれば、出版界、図書館界にたずさわる人たちも一個の読者である。それぞれの領域を越えて交流をはかり、著者から読者に至る多様なあり方を問うことである。

* 永井伸和 「出版・流通・読者」『人文会ニュース』 No.60, 1991年

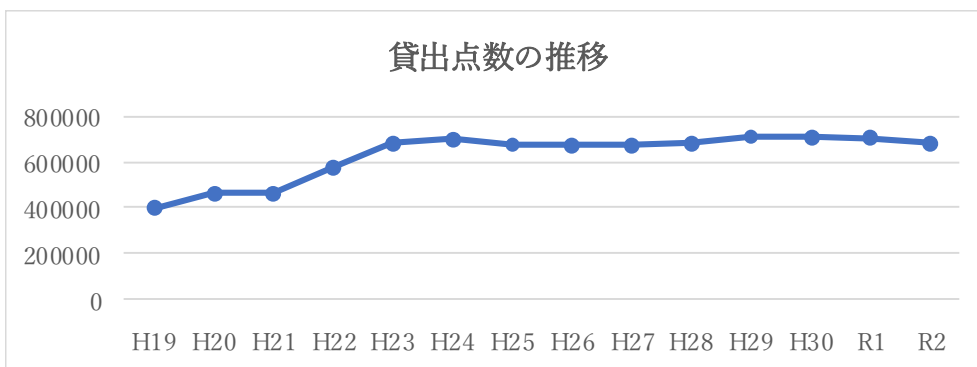
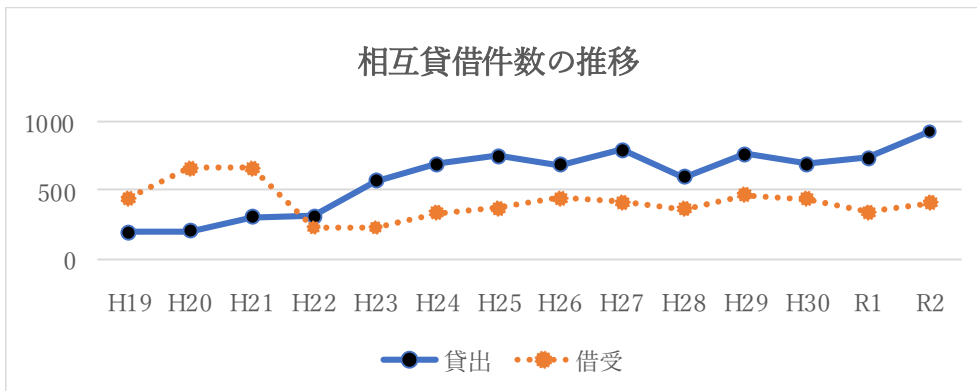
<塩尻市立図書館長着任時に採った主な資料収集方針>

- ・ 近隣市町村の図書館及び書店との資料の差別化
- ・ ベストセラー本の複本抑制
- ・ 地域資料の徹底的収集（未所蔵資料は古書でも購入）
- ・ 書店との棲み分け
- ・ 県内の大学の紀要及び同人誌などの収集

新書名	2014.10.1		2022.10.1	
	松本市	塩尻市	松本市	塩尻市
日経ビジネス人文庫	180	537	272	715
文庫クセジュ	159	262	166	323
日経文庫	424	459	437	510

<相互貸借・貸出数に見る塩尻市の特徴>

	人口	貸出	借受	人口1人当 貸出冊数
長野市	372,000	1,045	301	3.9
松本市	241,000	1,313	457	5.8
上田市	154,000	255	314	3.7
佐久市	98,000	257	556	5.2
飯田市	98,000	572	629	6.6
安曇野市	94,000	308	384	7.7
塩尻市	67,000	932	410	9.7
伊那市	66,000	388	414	5.9



11. おわりに

《プロフィール》

1956年茨城県鹿嶋町生まれ。1979年4月鹿嶋町役場入庁。総務、広報公聴、人事、企画を経て図書館へ。2007年3月鹿嶋市役所退職。同年4月塩尻市役所入庁。2012年同市役所退職。立教大学、同志社大学大学院、熊本学園大学などの嘱託講師などを経て、現在、古本屋「雀羅書房」店主。

◆MEMO◆

分科会 *****

第1分科会 図書館サービス (会場：6階交流ホール 定員：172人)
「図書館のSNS活用」

～利用者に興味を持ってもらえる、図書館にとってベストな広報とは?～

講師 佐藤 翔 氏 (同志社大学 免許資格課程センター 准教授)

SNSアカウントを新設する図書館が増えています。利用者からの反響はありますか?内容が広報誌やホームページの延長線上になってはいませんか?

図書館にふさわしく、利用者から魅力的に見えるようなSNSの活用の仕方について、同志社大学の佐藤 翔 氏に図書館情報学の視点からお話しいたします。

第2分科会 大人の読書活動 (会場：1階 中ホール大地 定員：500人)
「一つの作品ができるまで ～文芸編集者の作家伴走法～」

講師 中瀬 ゆかり 氏 (株式会社 新潮社 出版部部長)

株式会社新潮社 出版部部長 中瀬 ゆかり 氏を講師に迎え、作品をよりよいものとするため奔走する編集者目線での作品づくりについて、作家とのエピソードや編集者としての想い等をお話しいたします。作家と編集者の二人三脚を知り、より充実した「読書の時間」をお楽しみください。

第3分科会 幼児・児童に対するサービス (会場：10階会議室1001 定員：200人)
「科学絵本は楽しい! 『かがくのとも』の作り方」

講師 山形 昌也 氏 (福音館書店 書籍編集部長)

「こどものなぜ?」を大切に科学絵本。私たちが手にする科学絵本はどのように作られているのでしょうか。「たくさんふしぎ」や「かがくのとも」の福音館書店より書籍編集部長の山形 昌也 氏をお招きし、科学絵本を作る上で大切なこと、こどもへの手渡し方、おすすめ絵本などについて作り手側からお話しいたします。

第4分科会 学校図書館 (会場：9階会議室910 定員：92人)
「本の読み方を学ぼう～点検読書をやってみよう～」

講師 木下 通子 氏 (埼玉県立浦和第一女子高等学校 担当部長兼主任司書)

私たち大人は普通に行っている「はじめに」「あとがき」「目次」を読むことで、本の内容がわかることを知らない子どもたちが増えてきています。本を点検しながら読む「点検読書」を体験して、その本に何が書いてあるかをつかむ練習をしてみましょう。

持ち物：未読の新書1冊

第5分科会 大学図書館 (オンライン開催(Zoom) 令和4年11月28日(月)13:30～15:30)
「大学図書館の継続的サービス提供～勤務体制に左右されない環境構築～」

講師 山下 大輔 氏 (EBSCO Information Services Japan 株式会社
Director, SaaS Innovation for Japan)

坂本 里栄 氏 (西南学院大学 図書情報課)

働き方の選択肢に在宅勤務が加えられた今、気になるのは「その体制下でのサービス提供」です。ライブ型Webセミナーの実施等、在宅勤務でも学びの提供を止めなかった西南学院大学の環境構築や実際の業務内容について語っていただきます。

来週月曜日開催!
申込受付中!

※第5分科会は11月27日(日)まで申込が可能です。静岡県立中央図書館ウェブサイト又は右の二次元コードにより、スマートフォン等からふじのくに電子申請サービスにてお申し込みください。接続URL、配付資料等については返信メールにてお知らせします。



第5分科会申込

講師おすすめの本*****

講演 内野 安彦 氏

1. 『シヴォレーで新聞配達』 片岡 義男 著 (研究社, 1991)
※講師コメント: アメリカの雑誌・新聞に載った、いかにもアメリカ的な広告に著者の洒落な文章が躍る一冊。ニューヨークのタウン紙に掲載されたニューヨーク・パブリックライブラリーの広告は秀逸。大学の授業で何度も使わせてもらいました。
2. 『夢は書物にあり』 出久根 達郎 著 (平凡社, 2009)
※講師コメント: 同郷出身の作家であり、また古書店経営の大先輩でもある著者の「読書」や「本」についての卓見が楽しめるショート・エッセイ。

第1分科会 佐藤 翔 氏

1. 『フェイクニュースを科学する 拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ DOJIN 選書 79』
笹原 和俊 著 (化学同人, 2018)
※講師コメント: 計量社会科学の知見を参照しつつ、フェイクニュース問題のメカニズムを科学的に解説。
2. 『わかる! 図書館情報学シリーズ 第2巻 情報の評価とコレクション形成』
日本図書館情報学会研究委員会 編 (勉誠出版, 2015)
※講師コメント: 佐藤が「ウェブ情報源の評価」という章を担当しています。今回扱う話題にも触れています。

第2分科会 中瀬 ゆかり 氏

1. 『#真相をお話しします』 結城 真一郎 著 (新潮社, 2022)
2. 『財布は踊る』 原田 ひ香 著 (新潮社, 2022)
3. 『プリンシパル』 長浦 京 著 (新潮社, 2022)

第3分科会 山形昌也 氏

1. 『かわ こどものとも傑作集』 加古 里子 作・絵 (福音館書店, 1966)
2. 『雑草のくらし あき地の五年間 福音館の科学の本』 甲斐 信枝 作 (福音館書店, 1985)
3. 『せいめいのれきし』 バージニア・リー・バートン 著 石井 桃子 訳 (岩波書店, 1964)

第4分科会 木下 通子 氏

1. 『<弱さ>を<強み>に 突然複数の障がいをもった僕ができること 岩波新書 新赤版』
天島 大輔 著 (岩波書店, 2021)
2. 『ミス・サンシャイン』 吉田 修一 著 (文藝春秋, 2022)
3. 『子どもが心配 人として大事な三つの力 PHP 新書』 養老 孟司 著 (PHP 研究所, 2022)
4. 『燕は戻ってこない』 桐野 夏生 著 (集英社, 2022)
5. 『なんだろうなんだろう』 ヨシタケ シンスケ 著 (光村図書出版, 2019)
6. 『マイスモールランド』 川和田 恵真 著 (講談社, 2022)
7. 『「ナパーム弾の少女」五〇年の物語』 藤 えりか 著 (講談社, 2022)
8. 『両手にトカレフ』 ブレイディみかこ 著 (ポプラ社, 2022)
9. 『モノクロの夏に帰る』 額賀 零 著 (中央公論新社, 2022)
10. 『ルポ誰が国語力を殺すのか』 石井 光太 著 (文藝春秋, 2022)
※すべて、YouTube みちねこラジオ の今月の一冊で紹介しています。「みちねこラジオ」は2021年11月から配信中。https://youtube.com/playlist?list=PLz_F3pssGqZNfe5PrQDVJEK-iPhjerKWn

第5分科会 山下 大輔 氏

1. 『「仕事ができる」とはどういうことか?』 楠木 建 著, 山口 周 著 (宝島社, 2019)
2. 『日本人が外資系企業で働くということ』 藤田 研一 著 (ダイヤモンド社, 2021)

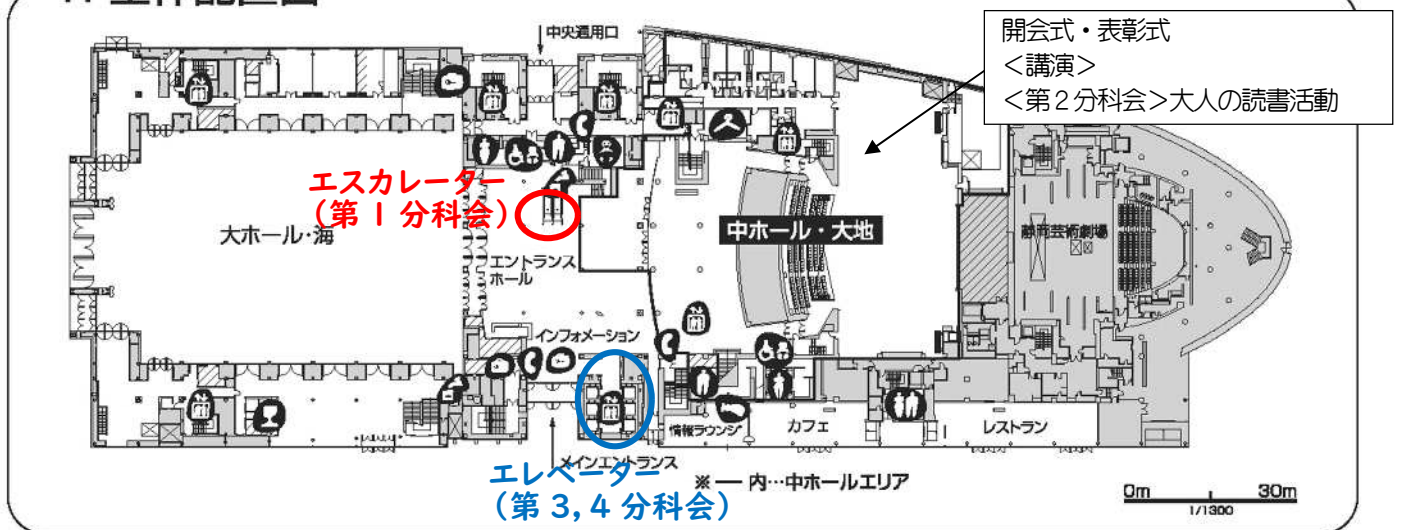
第5分科会 坂本 里栄 氏

1. 『世界で一番やさしい会議の教科書 入社2年目の女子がグダグダ会議を変える!』
榊巻 亮 著 (日経 BP 社, 2015)
2. 『システムを「外注」するとき読む本』 細川 義洋 著 (ダイヤモンド社, 2017)

会場案内図

	時間	階	会場	定員
受付	9:20～ 9:45	1階	中ホール大地ロビー	
開会式・表彰式	9:45～10:15	1階	中ホール大地	800
講演・諸連絡	10:30～12:40	1階	中ホール大地	800
第1分科会 図書館サービス	13:45 ～	6階	交流ホール	172
第2分科会 大人の読書活動		1階	中ホール大地	500
第3分科会 幼児・児童に対するサービス	15:45	10階	会議室 1001	200
第4分科会 学校図書館		9階	会議室 910	92

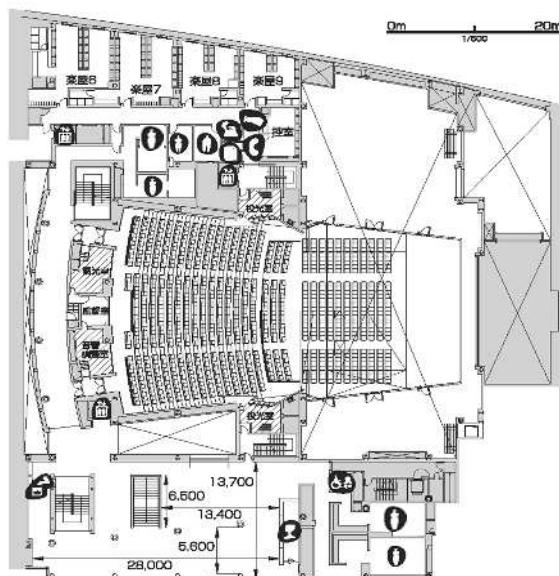
1F全体配置図



- 多目的トイレ
- 女性用トイレ
- 給湯室
- クローク
- 自動販売機
- トイレ
- エレベーター
- ドリンクコーナー
- 洗濯室
- 電話
- 男性用トイレ
- 託児室
- ロッカー
- 水飲み場

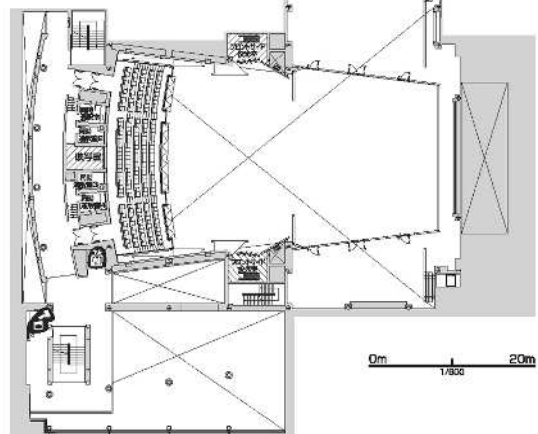
● 中ホール 2F

※客席は1,209席パターンの場合



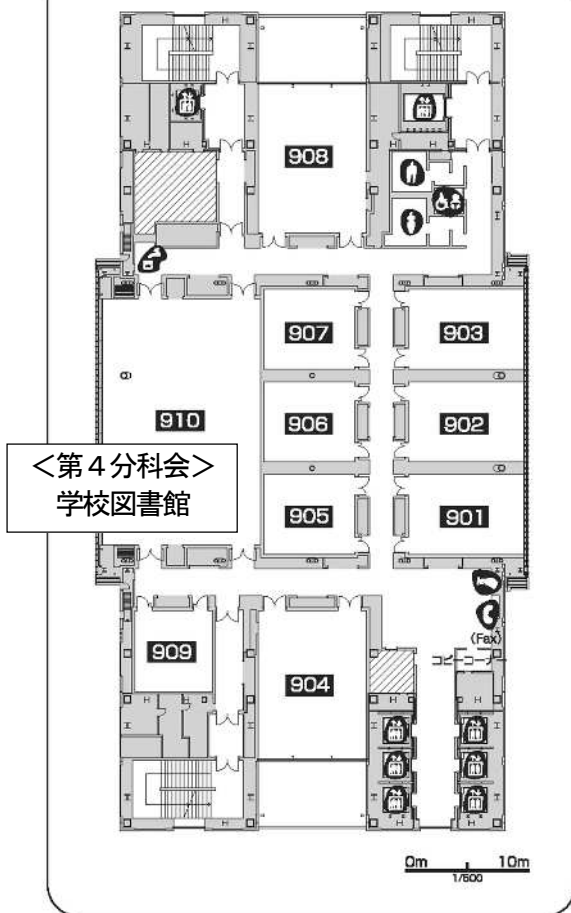
● 中ホール 3F

※客席は各パターン共通
※舞台上部は1,209席パターン

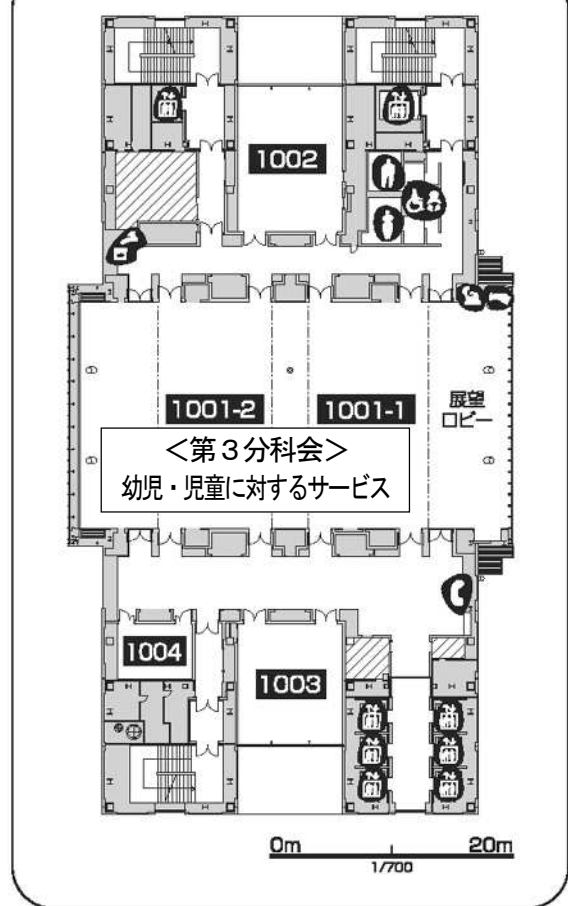


- * 中ホール 男性トイレは1Fのみになります。
- * 中ホール 2Fトイレは女性専用となります。
- * 3Fにはトイレがありません。

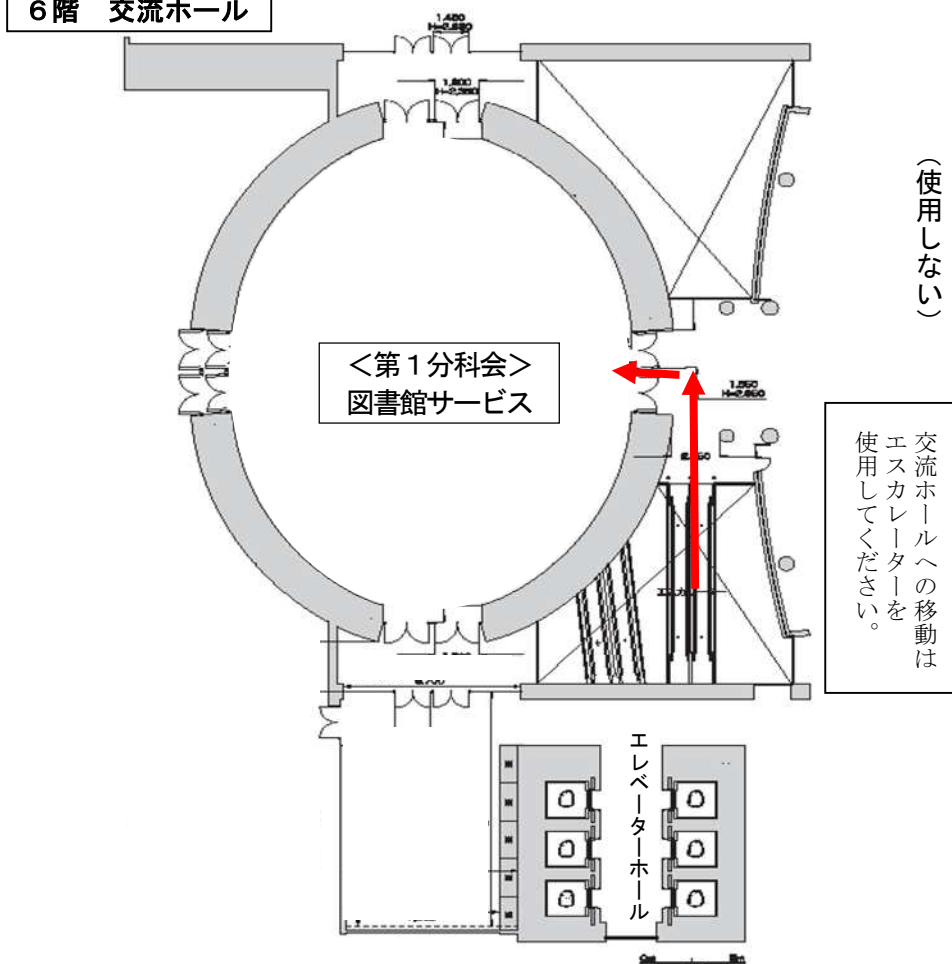
9F全体配置図



10F全体配置図



6階 交流ホール



注意事項

- ・館内ではマスクを着用し、適宜、消毒液で手指の消毒を行ってください。
- ・グランシップ各会場への飲料の持込みは、中身がこぼれない容器（ペットボトルなど）のみ可能です。
- ・昼食を持参した場合は、分科会の指定された座席で黙食でお取りください。第2分科会参加の方は、指定座席のほか中ホール2階ホワイエを御利用ください。弁当等のごみはお持ち帰りください。
- ・講演終了後はブロックごとの退場としますので、案内があるまでお掛けになったままお待ちください。第1分科会参加者はエスカレーターで、第3，4分科会参加者はエレベーターで移動してください。
- ・第1，3，4分科会の資料は机上に配布します。第2分科会は午後1時15分から受付で資料を受け取ってください。

令和4年度 静岡県図書館大会運営委員会

委員長	勝見 幸弘	(静岡市立中央図書館)
副委員長	伊藤 欽文	(菊川市立小笠図書館)
第1分科会	杉本 守	(藤枝市立駅南図書館)
第1分科会	柏木 麻友子	(浜松市立中央図書館)
第2分科会	古谷 香澄	(沼津市立図書館)
第2分科会	勝山 高	(静岡県読書推進運動協議会)
第3分科会	渡邊 友美	(静岡市立清水中央図書館)
第3分科会	秋田 桂輔	(清水町立図書館)
第4分科会	中村 都美	(静岡市立中島中学校)
第4分科会	仲本 由加	(静岡県総合教育センター)
第5分科会	袴田 美里	(静岡大学附属図書館)
第5分科会	野崎 奈々	(常葉大学附属図書館(草薙))
講演	花村 拓海	(静岡県立中央図書館)